

旧小柴貯油施設について

1 現況

○面積は約 52.6ha と富岡総合公園（約 21.9ha）の約 2.4 倍となっています。金沢自然公園（約 58.5ha）に匹敵する規模です。

○面積の約 97%は国有地となっています。

○約 6 割の部分は斜面緑地となっており、平坦地はタンク部分を含め約 4 割です。

○貯油タンク等が地上・地下合わせて 34 基存在しており、そのうち地下タンクは 29 基あります。

○タンクは大きいもので、地下 30m（9階建てのビル程度）、直径 38m（外周が約 120m の円）の大きさがあります。

○最も高い所と低い所の標高差は約 80mあり、起伏の多い地形となっています。



現況図

2 跡地利用計画

(1) 米軍施設返還跡地利用指針（平成 18 年 6 月）

～森と海に抱かれた自然体験空間～

国道 357 号の軸線上に位置し、海と緑とレクリエーション施設に囲まれています。旧海岸線の変化に富んだ斜面地に樹林が分布しており、貯油タンクの適切な処理とともに、身近に自然が体験できる豊かな緑の空間、広域の住民が交流する空間の形成を目指します。

①緑のオープンスペース、市民レクリエーション空間

現在の緑豊かな自然環境を活用し、また、周辺のオープンスペースと連携して緑のネットワークを構築して、市民のレクリエーション空間を形成します。

②魅力的な景観の保全

緑豊かで地形の変化に富んでおり、海への眺望や魅力的な地域景観を構成していることから、現在の地形を基本として土地利用を図ります。

③広域機能の立地

横浜横須賀道路金沢支線や金沢シーサイドラインなど交通利便性を活かし、広域機能の誘導を図ります。

(2) 横浜市米軍施設返還跡地利用行動計画（平成 19 年 3 月）

○土壤調査や国有地の取扱い等について、国の早急な対応を求めています。

○緑の 7 大拠点の一つである「小柴・富岡」に位置づけられており、市が都市公園として整備します。

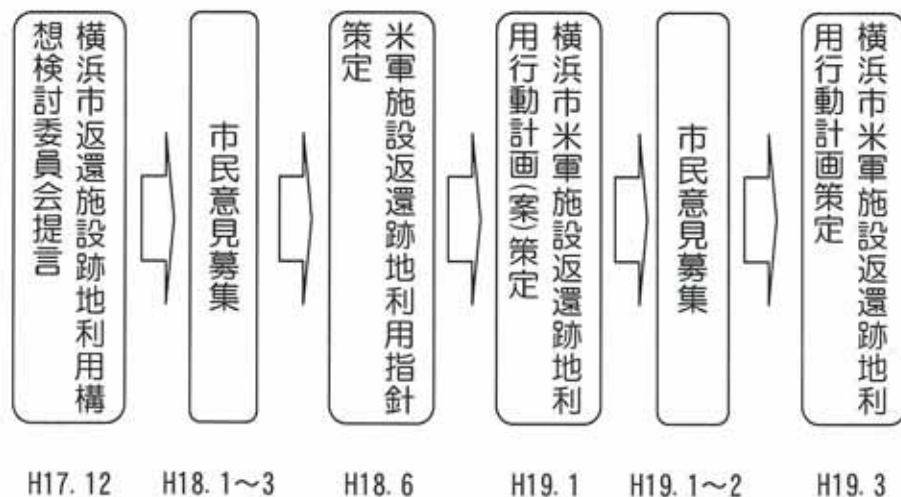
○「開港 150 周年の森」として記念植樹等市民参加の森づくりを進めます。

○平成 18 年度に国が実施している「国土施策創発調査」のモデル地区となっていることから、これを契機に首都圏の環境再生の拠点としての整備のあり方を検討していきます。

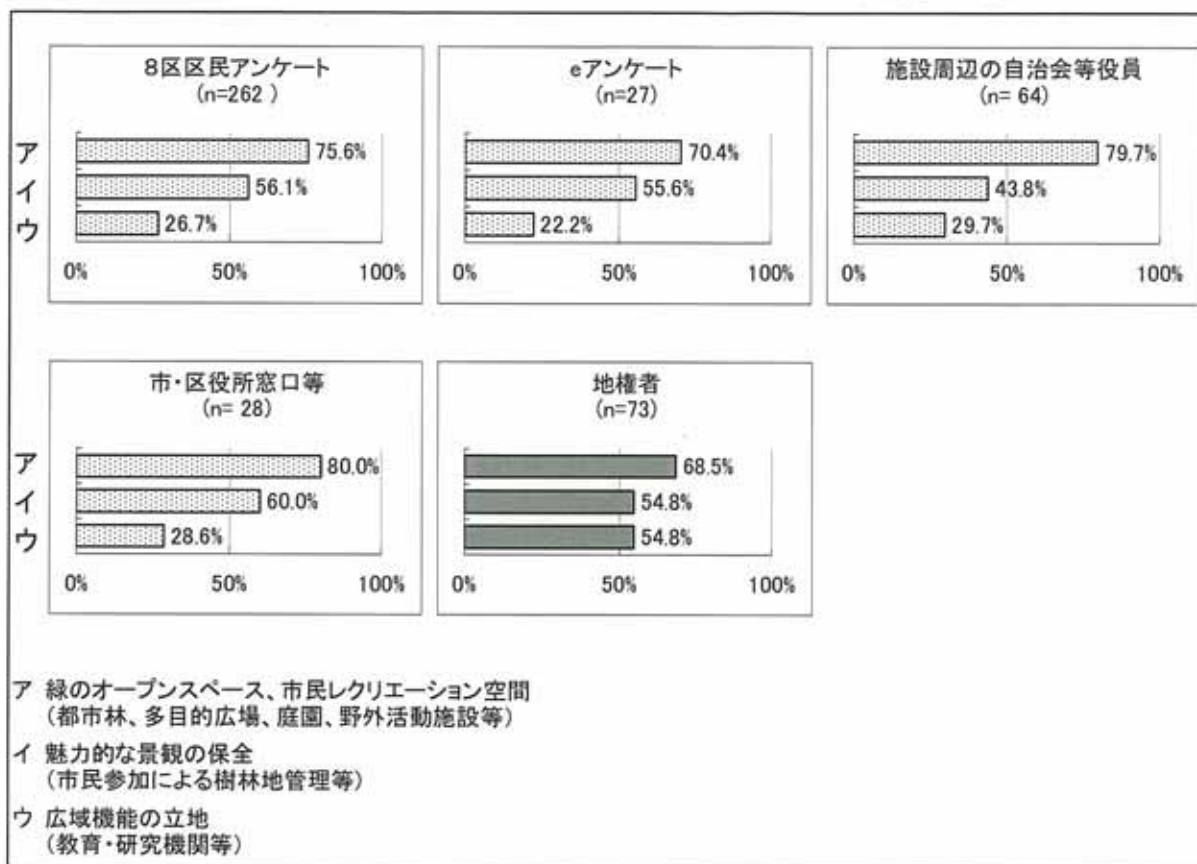
○民間土地所有者の意向、地元の意見・要望等を踏まえながら、具体化に向けた検討と国との調整を進めていきます。

○小柴水域について、早期返還を要請していきます。

（参考 1）跡地利用計画に関するこれまでの経過



(参考2) 横浜市返還跡地利用構想検討委員会提言に対する意見募集結果



3 現在の状況

(1) 本市の取り組み

○横浜市では、跡地利用の具体化に向けた基礎的な調査を進めています。具体的には、現地の動植物類の生息状況や水路の水量等の調査、基本計画の検討を行っています。

(2) 国の取り組み

○敷地内2箇所を進めていた、がけ防災工事（のり面保護）が11月末までに完了しました。

○防衛省において、土壌調査（資料等調査）を進めています。

